

ヤングフォレスター7始動～若い力で目指す地域林業活性化～

東北森林管理局 三八上北森林管理署 大水香澄
(元 米代東部森林管理署)
米代東部森林管理署 大野由美子
大館市 産業部農林課 千葉泰生

1. はじめに

1. 1 地域の林業の特色

米代東部森林管理署は、秋田県北部の米代川流域のうち、鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市（旧鷹巣町）にある国有林を管轄しています。

本地域は、古くから秋田杉の主要な産地として林業が盛んに行われてきました。特に、大館市、北秋田市、上小阿仁村（米代東部森林管理署上小阿仁支署管轄区域）からなる「大館北秋田地域」は、平成29年4月に林野庁より「林業成長産業化地域」の選定を受け、同年10月には協議会を立ち上げるなど、林業の成長産業化が進んでいます。

1. 2 地域の林業の課題

本地域の林業の課題として、施業集約化や林業従事者の確保等があげられます。その解決のため、本地域では、米代川流域フォレスターチームや米代川流域林業活性化センターなどによる民国が連携した取組が進められています。

上述したような民国連携の取組に参加しているのは、主に各組織において指導的立場にある職員です。一方、米代東部森林管理署や管轄区域内の3市1町と秋田県の出先機関である地域振興局の林務担当部署には若手職員が多く在籍していますが、若手職員が一体となって自ら地域林業の活性化を考える動きは活発ではありませんでした。

1. 3 ヤングフォレスター7結成に向けて

1. 2で述べた本地域の状況について、米代東部森林管理署では「組織間の交流を深めることができれば地域林業のさらなる活性化に繋げられるのではないか」、「若手職員が地域の林業について川上～川下まで全般的に学び、考える場を持ちたい」という考えを持っていました。また、民有林行政側でも「地に森林管理署があっても、実際にどのような仕事をしているのか分からない」、「若手職員は自分の考えを持っていても発言しにくい、自由に発言・発信する機会がほしい」といった考えを持っており、国有林、民有林ともに若手職員による活発な行動を望んでいました。

そこで、平成29年7月、米代東部森林管理署では、若い人たちが交流や勉強を通じて地域林業の活性化を考える場として「ヤングフォレスター7」という活動を考案しました。本活動を3市1町と2地域振興局に提案したところ、「ありそうでなかった新鮮な取組だ」、「若い人たちの交流と勉強の場として非常に魅力的である」と賛同を得られ、同年8月、「ヤングフォレスター7」が結成されました。

2. 活動の概要と活動内容

2. 1 活動の概要

本活動は、米代東部森林管理署、鹿角地域振興局、北秋田地域振興局、鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市の7つの行政組織の若手林務担当者を中心に構成されています。このことから本活動を「ヤングフォレスター7」と名付けました。平成29年度と平成30年度は米代東部森林管理署が事務局となり、活動しました（図1）。

本活動の目的は、「林業に関する見識を深めること」と、「組織間の連携を強めること」の2つであり、自由な意見を尊重することを心得としています。

活動内容は、主に学習会や現地検討会であり、活動を通して「地域林業の活性化」を考えることとしています。

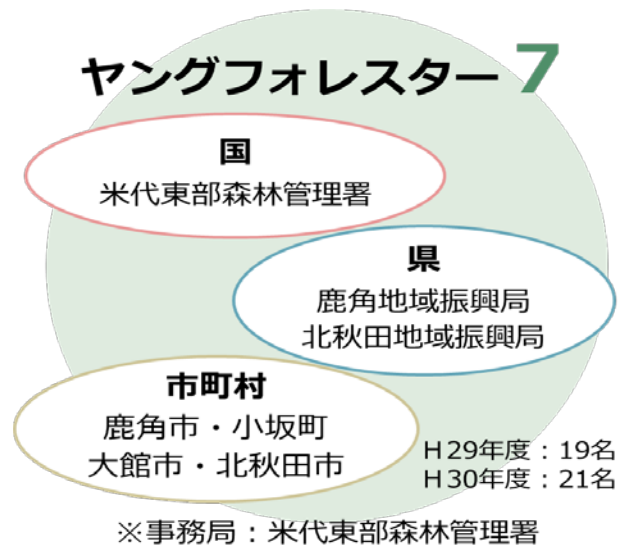


図1 ヤングフォレスター7の概要

2. 2 活動内容

平成29年度から平成30年度の活動は表1のとおり行いました。このうちいくつかを紹介します。

表1. 活動内容

平成29年度	
第1回	組織紹介（米代東部森林管理署）、森林整備計画についての学習
第2回	一貫作業システム現地検討会への参加、 種苗業者の苗畑における現状と課題等の意見交換
第3回	第2回（現地）のふりかえり、低コスト施業についての学習、 組織紹介（大館市）、林業関連イベントへの参加報告
第4回	地域林業の課題解決に向けたワークショップ、 平成29年度の活動のまとめ、平成30年度の活動計画
林業成長産業化講演会	ヤングフォレスター7の活動を地域の林業関係者へ紹介
平成30年度	
第1回	人事異動による新メンバーへの概要説明、 平成30年度の活動計画
第2回	列状間伐現地検討会、間伐について話し合い
第3回	組織紹介（小坂町）、出前授業（木育）について話し合い
地域力フォーラム in あきた2018	地域の林業とヤングフォレスター7について地域の人々へ紹介

2. 3 低コスト施業に関する現地検討会

平成 29 年度第 2 回は、「低コスト施業」をテーマに現地検討会を実施しました。

初めに、大館市内の国有林にて開催された「一貫作業システム現地検討会」に参加しました。一貫作業システムについての説明や、実施した事業体の意見を聞き、コンテナ苗の植付体験を行うなど、一貫作業システムとコンテナ苗の植付に関して見識を深めました。

次に、北秋田市にある種苗会社において、苗木生産の現場を見学しました（写真 1）。コンテナ苗や広葉樹苗の生産・出荷方法、課題等について種苗生産業者と意見交換しました。



写真 1 種苗生産業者との意見交換

2. 4 地域林業の課題解決に向けたワークショップ

平成 29 年度第 4 回は、地域林業における課題を出し合い、その解決に向けたアイデア作りのワークショップを行いました。ワークショップ形式で少人数のグループを作って話し合いをしたことにより、全員が発言し活発な意見交換をすることができました。その結果、「森林所有者に働きかける」という課題に対しては、「動画サイトを活用して持山を販売する」といった若い人ならではのアイデアが出されました（図 2）。また、「一般の人へ林業を PR する」という課題に対しては「山菜採り、林業体験やツリーハウス作りなど森林・林業を子供の頃から体験させ身近に感じてもらう」といったアイデアが多く出されました（図 3）。

メンバーからは「グループで話し合うことで様々な考えを聞き、アイデアを思い浮かぶことができた」、「普段アイデアや意見を発言する機会がないので面白かった」といった感想が寄せられました。

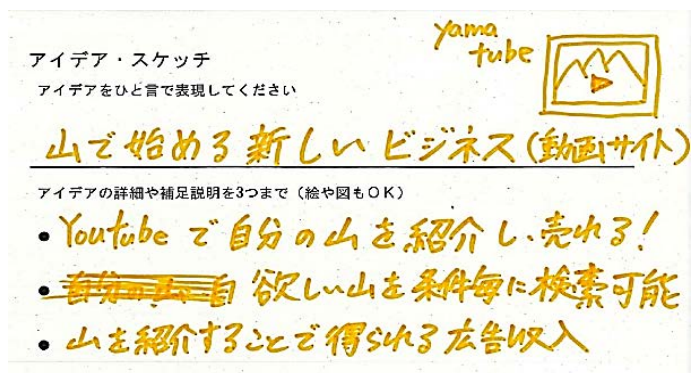


図 2 森林所有者に働きかけるためのアイデア

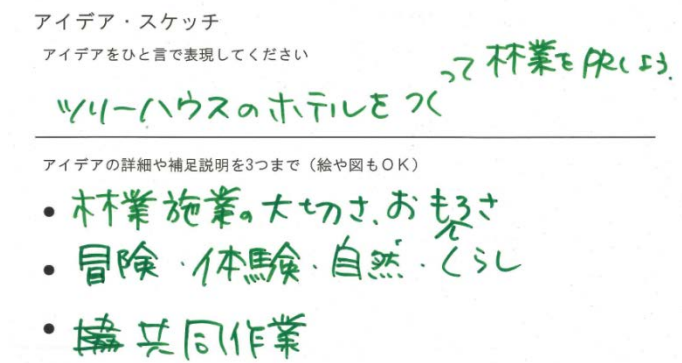


図 3 一般の人へ林業をPRするためのアイデア

2. 5 列状間伐に関する現地検討会

平成 30 年度第 2 回は、「列状間伐」をテーマに現地検討会を実施しました（写真 2）。

初めに、鹿角市の国有林で列状間伐を実施している現場に赴き、事業体の方と意見交換し、作業のしやすさや安全性など列状間伐のメリットを確認できました。

その後、現地検討会についてメンバーで話し合いをしました。「初めて列状間伐を見たので業務の参考にしたい」、「民有林への導入を考えるため、森林所有者の話を聞いてみたい」といった意見が出され、活発な意見交換となりました。



写真 2 列状間伐の現地検討会

2. 6 組織紹介

本活動では、所属する各組織の特徴や業務内容などを紹介する取組を度々実施しています。平成 29 年度第 1 回では米代東部森林管理署、第 3 回では大館市、平成 30 年度第 3 回では小坂町が紹介しました（写真 3）。

本取組では、メンバーが取り組んでいる業務の実状や、「森林環境譲与税や有害鳥獣の駆除にどう対応するか悩んでいるので、いろいろな情報を知りたい」というようなヤングフォレスター 7 だからこそ話せる率直な思いも語られています。今後も継続して行う予定です。



写真 3 組織紹介（小坂町）

2. 7 林業成長産業化講演会

本活動を地域に発信する取組も実施しました。

平成 30 年 2 月 26 日には、米代川流域林業活性化センター、大館北秋田地域林業成長産業化協議会が主催する「林業成長産業化講演会」に参加しました。地域の林業関係者へ向け、民国連携して地域林業を盛り上げる若手林務担当者のグループとして本活動が始まったことを紹介しました（写真 4）。



写真 4 林業成長産業化講演会の様子

2. 8 地域力フォーラム in あきた 2018

平成 30 年 11 月 18 日には、秋田市で開催された「地域力フォーラム in あきた 2018」というイベントに参加しました。本フォーラムは、秋田で頑張っている若者たちの活動と思いを共有し、秋田の未来を切り開くためのきっかけ作りの場として毎年開催されています。

ヤングフォレスター 7 は、「若い力で秋田の林業を盛り上げる！」というテーマのもと、地域の林業や本活動について紹介しました。プレゼンテーション後には参加者と意見交換を行い、地域の人々の林業に対する思いを聞くことができました（写真 5）。



写真 5 参加者との意見交換の様子

3. 活動を通して

3. 1 活動を通して寄せられた感想・意見

メンバーからは活動に参加して良かったこととして、「他組織の業務内容が分かった」、「組織を超えて意見交換や相談がしやすくなった」、「担当業務外の分野についても学ぶことができた」、「民有林の実状や意識を感じられるとともに国有林野事業についても理解が深まった」など、実務面の変化が挙げられました。さらに、「民有林の実情を身近に感じられるようになった」、「民国連携の必要性を改めて感じた」、「地域の林業についてさらに学びたいと考えるようになった」、「林業関連イベントに参加してみたいと感じるようになった」など、意識面の変化も挙げられました。

また、各組織において本活動は「国・県・市町が合同で活動する良い機会であり継続を望む」、「勉強と交流の場として職員には積極的に参加してほしい」など、好意的に受け止められており、活動に対する評価が高いことが分かりました。

活動における課題として、「行政の意見は疑問や憶測でしかない場合があるため、行政だけで林業の課題解決を図ることは困難だ」という意見が寄せられました。

3. 2 活動による効果

本活動は、メンバーの組織における業務の改善にもつながっています。

大館市では、平成 30 年度の大館市有林の間伐方法を「定性間伐」から「列状間伐」に変更しました（写真 6）。これまで担当者は列状間伐の採用を検討するものの、現場を見たことがないため「事業管理が難しいのではないか」、「本当に低コスト化を図れるのか」、「安全なのか」といった不安があり、実際に採用できずにいました。そんな中、平成 30 年度第 2 回の活動で列状間伐の現地検討会



写真 6 大館市有林の列状間伐

に参加したことにより、抱えていた不安が解消されたため、定性間伐から列状間伐に変更することができました。その結果、定性間伐を採用した場合と比べ、変更後は約 10%コストを削減できました。大館市では今後も列状間伐を採用し、他市町村のみならず、森林所有者への波及も目指していきたいと考えています。

4. これまでの成果と今後の展望

4. 1 これまでの成果

本活動の目的に沿って考えると、その一つであった「林業に関する見識を深める」については、「業務の改善につながった」、「担当業務外の分野にも関心を持つようになった」、「地域へ発信したいと思うようになった」などこれまでに寄せられた意見から、目的の達成に繋がるような活動ができていることが分かりました。また、本活動が地域林業の課題に取り組む能力や意識の向上に繋がっていることが確認できました。

もう一つの目的であった「組織間の連携を強める」についても、「組織を超えて連絡相談しやすくなった」、「民国が一体となって地域林業を盛り上げようという意識の向上に繋がった」といった意見が寄せられたことから、本活動が組織間の連携を強め、民国連携を深める一助になっていることがうかがえます。

また、本地域の林業関係者からは、「若い人を本地域に呼び込むため、林業若者会のような有志会を組織したらどうか」というような声が出ています。若い人たちの活躍に期待する意見であることから、本活動がその若者会のモデルになり得るとも考えられます。

4. 2 今後の展望

本活動で今後取り組みたいこととして、国有林側からは「民有林についてさらに理解を深めたい」という意見がありました。また、民有林側からは「国有林の先進的な施業方法や技術を民有林に導入する方法を検討したい」、「森林環境譲与税などの新制度の活用について意見交換したい」、「相談や情報交換のできる貴重な機会として自由な話し合いを続けていきたい」といった意見が出されました。このことから、今後もフリートークのような話し合いの場を積極的に設けていきたいと考えています。そして、若手職員がアイデアを業務に活かしたり、組織を超えて協力したりできるような活動を続けていきます。

また、活動を重ねるにつれ、参加者から「地域の人に林業についてもっと知ってほしい」、「地域の方が林業についてどう考えているのか知りたい」という意見が出されるようになりました。そこで、今後も地域のイベントに参加し、林業やヤングフォレスター7について発信する活動を続けていきたいと考えています。さらに、地域の子どもに向け、森林や林業に親しんでもらうための出前授業を実施することも目指しています。本活動のメンバーは児童・生徒と世代が比較的近いため、児童・生徒により親近感を持ってもらいながら森林・林業について一緒に考えるように学んでもらえると考えています。ヤングフォレスター7だからこそできる林業普及活動を展開していきます。

これからも若い人ならではの発想を大切に、地域林業を盛り上げる活動を進めていきます。